

平成29年度（2017年度）
フレフレ げん
2020ごみ減量プラン
～第3次豊中市ごみ減量計画～
事業評価報告書



『第4次豊中市
一般廃棄物処理基本計画』
及び
『第4次豊中市ごみ減量計画』
を策定しました

新たな減量目標

ごみの焼却処理量を平成39年度（2027年度）には
平成28年度（2016年度）実績より **8%** 削減

平成28年度
約104千t / 年



平成39年度
約95千t / 年

平成30年（2018年）12月

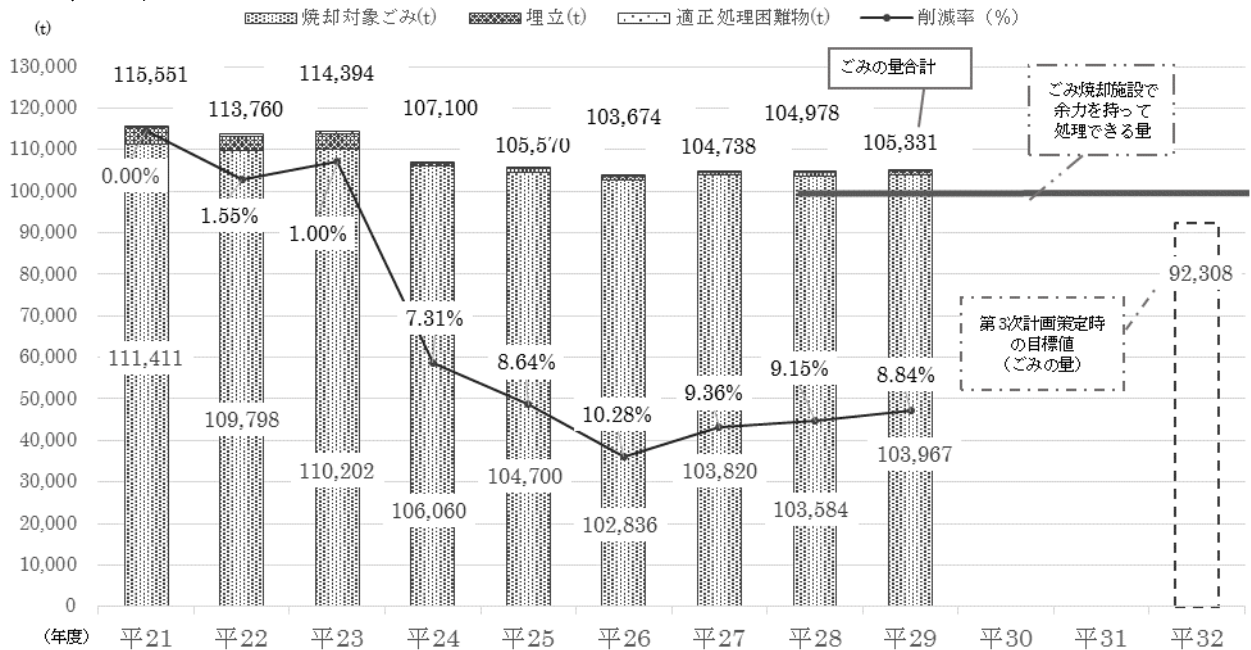
平成29年度(2017年度)2020(フレフレ)ごみ減量^{げん}プラン事業評価報告書(抜粋)

5. 第3次豊中市ごみ減量計画の総括

1. 減量目標の達成状況等について

○平成29年度(2017年度)の達成状況及び審議会の評価

1) ごみの量

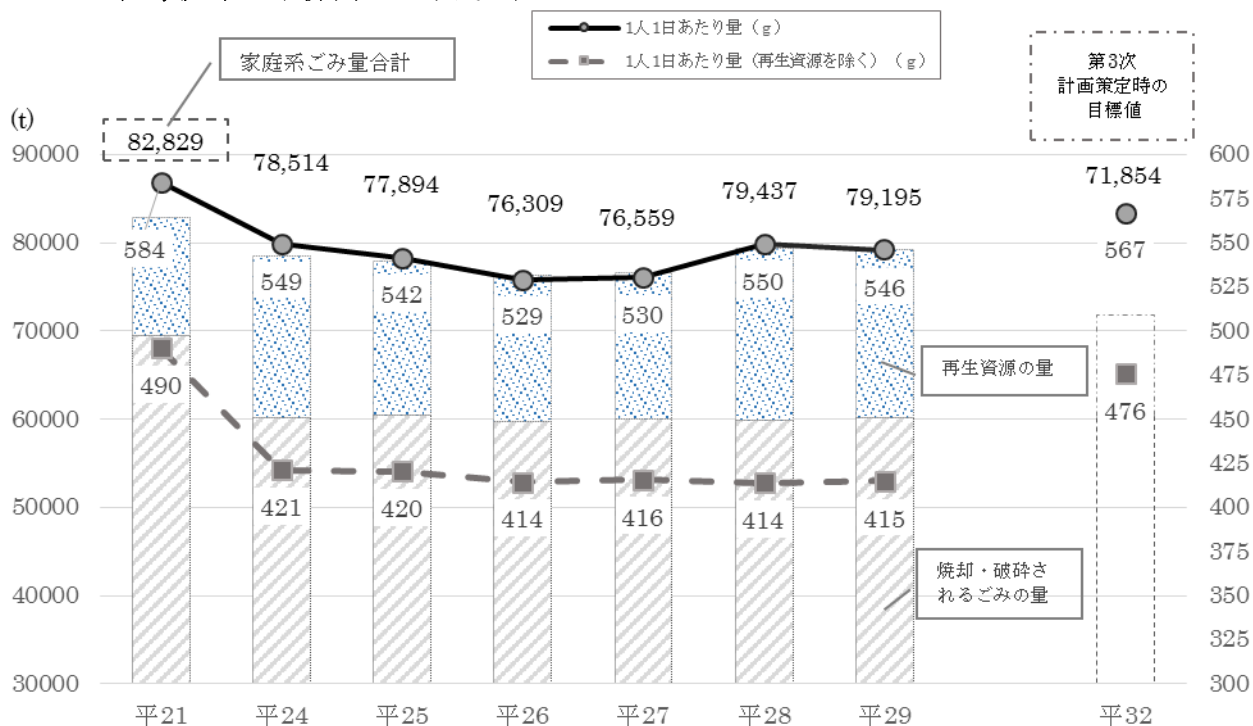


※ 平成28年(2016年)3月から、新焼却炉施設稼働開始

- ・ごみの量・・・資源化されず焼却・破碎される量(焼却処理量+スリーR・センターでの破碎等処理量)
- ・削減率・・・平成21年度(2009年度)のごみの量を基準とした年度ごとの比率

減量目標	年度	平21年度 (実績値)	平29年度 (実績値)	平29年度 (目標値)	平32年度 (目標値)
平21年度より 20%削減	ごみの量	115,551t	105,331t	100,250t	92,308t
	削減率	0%	8.84%	13%	20%
審議会の評価	<p>・ごみの量は、計画策定時から平成26年度(2014年度)までは減少傾向だが、近年は微増傾向となっている。これは、第3次豊中市一般廃棄物処理基本計画策定時に想定していた人口より、実際のそれが増加していることによるものである。(図-1参照)</p> <p>・計画の目標値を達成できておらず、計画策定時に想定した豊中市、伊丹市の人口を基に建設した焼却施設に、余力を持って処理することが困難な量が搬入されていることから、可燃ごみの削減が喫緊の課題である。</p>				

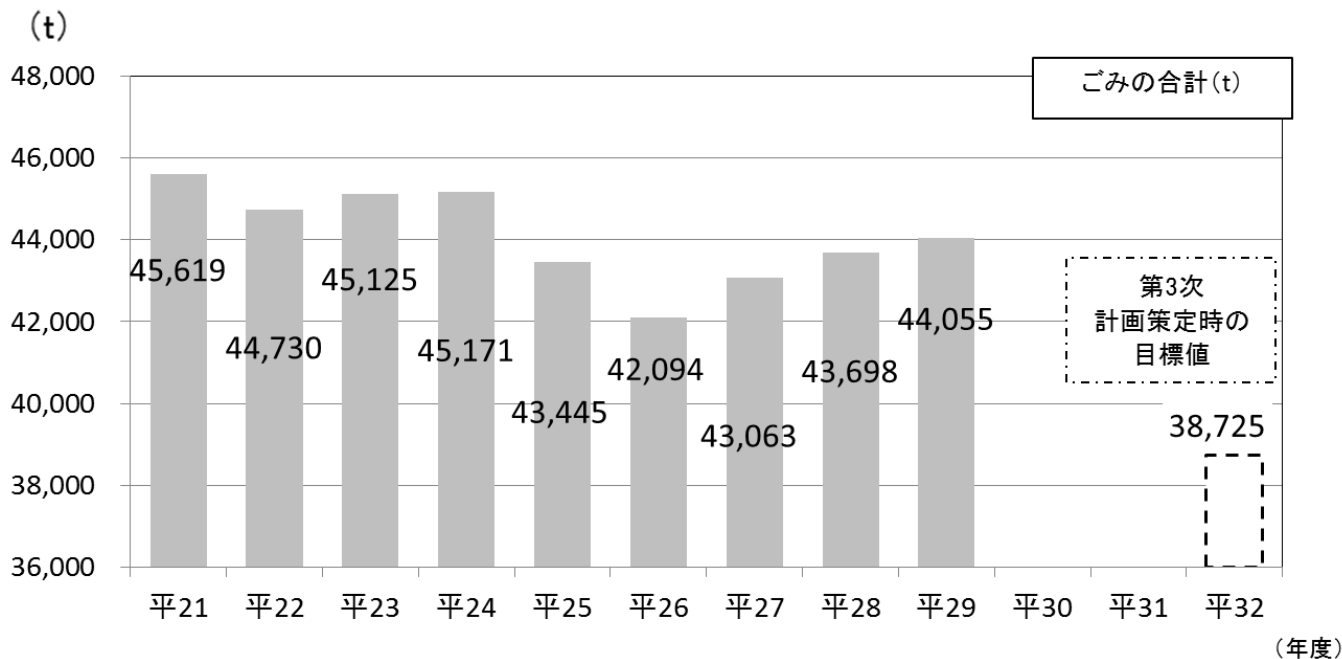
2) 家庭系ごみ排出量・市民1人1日あたりの量



・家庭系ごみ排出量・・・豊中市伊丹市クリーンランドへの家庭系ごみ搬入量+集団回収量
 ※平成32年度(2020年度)以外は各年度の実人口を使用して算出、平成32年度(2020年度)は計画策定時の想定人口(約34.7万人)での算出

個別の数値目標	年度	平21年度 (実績値)	平29年度 (実績値)	平29年度 (目標値)	平32年度 (目標値)
平21年度比 17g削減	家庭系ごみ排出量	82,829t	79,195t	75,227t	71,854t
	市民1人1日あたりの量	584g	546g	577.3g	567.1g
審議会の評価	<p>・家庭系ごみの市民1人1日あたりの排出量は、平成24年度(2012年度)から実施した新しい分別・収集の開始に伴う分別方法に関する出前講座の実施等により、市民意識の向上やごみ減量の実践につながったことから、減少傾向にあった。平成28年度(2016年度)に条例で再生資源等の持ち去り行為を禁止した規定を施行したことにより、市民1人1日あたりの排出量は増加したものの、計画値はクリアしている。</p> <p>・市民1人1日あたりの量は、最終目標年度(平成32年度(2020年度))の目標値を達成しているものの、人口が微増傾向にあるため、家庭系ごみの総排出量については、目標値を達成しておらず、さらなる取組みの推進が必要となる。</p>				

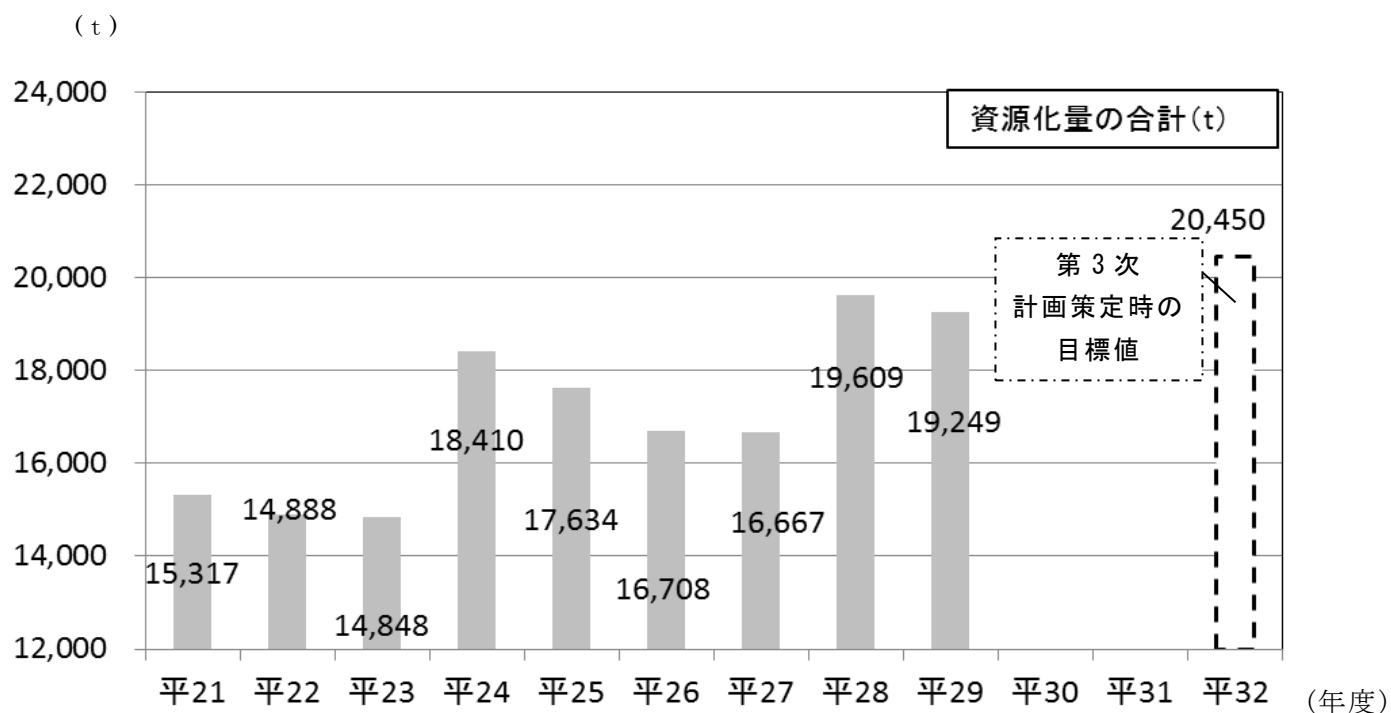
3) 事業系ごみ排出量



・事業系ごみ排出量・・・豊中市伊丹市クリーンランドへの事業系ごみ搬入量
+ 庁内古紙回収量等

個別の数値目標	年度	平 21 年度 (実績値)	平 29 年度 (実績値)	平 29 年度 (目標値)	平 32 年度 (目標値)
平 21 年度より 約 7 千 t 削減	事業系ごみ排出量	45,619t	44,055t	41,911t	38,725t
審議会の評価	<p>・「事業系ごみ排出量」の増加については、近年、福祉施設が増えたことにより、水分が多く含まれる紙おむつ等の排出量が増加していることが主な要因と推察されます。</p> <p>・要因となる業種がある程度特定できていることから、排出されるごみを分析し、その実態を把握したうえで、事業者が適正に分別排出するための「事業系ごみ減量マニュアル」の活用や事業者の特性に応じた「事業系ごみ業種別ごみ減量マニュアル」の作成が求められる。また、中間処理施設における、搬入物調査の強化など、今まで以上の取組みが必要である。</p>				

4) 資源化量



・資源化量・・・家庭系ごみ及び事業系ごみの内、資源化されるごみ量

個別の数値目標	年度	平 21 年度 (実績値)	平 29 年度 (実績値)	平 29 年度 (目標値)	平 32 年度 (目標値)
平 21 年度より 約 5 千 t 増加	資源化量	15,317t	19,249t	18,295t	20,450t
審議会の評価	<p>・資源化量は、平成 24 年度（2012 年度）から実施した家庭系ごみの分別区分の拡大（空き缶、プラスチック製容器包装、ペットボトルなど）により、増加したが、その後は、減少傾向であった。平成 28 年度（2016 年度）に条例の一部「再生資源等持ち去り行為の禁止規定」を施行したことによる効果や継続した周知活動により、排出量が増加し平成 29 年度（2017 年度）の目標値は達成できている。</p> <p>・計画の目標値を達成しているが、集団回収量の増加や可燃ごみに多く含まれる紙ごみの分別などに取り組む必要がある。</p>				